

絵画

本堂の襖や屏風には有名な画家である堂本印象（1891～1975 年）の手によって壁画が描かれている。これらは本堂が 1969 年に建設された際に制作されたものである。仏教の場面や風景など、オーソドックスな情景が描かれることが多い他の寺院の壁画と異なり、この壁画は非常に抽象的である。これは堂本が、20 世紀抽象芸術が隆盛だった時期にヨーロッパで学んだ経験があるためである。

堂本は、本来のスタイルである伝統的な日本画の様式と、ヨーロッパからの影響を組み合わせ、油彩やアクリル絵具ではなく天然の顔料や金箔、墨を用いて、非常に日本的な抽象を生み出した。多くの人々が、これらの作品には西芳寺の敷地内の景観が直接的に影響を与えていると指摘している。ある部分は動物や植物を思わせ、またある部分は仏教的な世界観を示唆している。

壁画は全部で 104 点あり、年間を通じてその一部しか公開されていないが、1 月中旬から 3 月末にかけて西芳寺を訪れた人は、最も有名な日本画の巨匠の手によるこの崇高な作品のすべてを観覧することができる。